

令和2年度「住環境に対する意識の変化等に関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

今後の住まいや住宅地のあるべき姿を検討する際に、参考にさせていただきます。

新型コロナウイルスの影響により、住まいや住宅地に求められる価値観にどのような変化が見られるのかを分析し、横浜市住宅政策審議会において、住宅施策を検討する際の参考資料として活用していきます。

2 アンケートを実施した感想

Q15の住宅の「性能等」における質問では、「換気の良さ」と「広さや間取り」と回答した方が多く、Q16の住宅の「近隣の環境」における質問では、「日常の買物などの利便」と「医療・福祉・文化施設などの利便」と回答した方が多かったことから、新型コロナウイルス感染症の拡大により自宅で過ごす時間がこれまで以上に長くなり、多くの方々が住まいに対する重要性を改めて実感しているように感じました。

3 担当部署のeアンケートメンバーへのメッセージ

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、働き方や住まい方などの変化により、住まいや住宅地に求めるニーズも多様化することが予想されます。どこでも誰もが安心して暮らせる住環境を目指して、今後も住宅政策を推進していきたいと思えます。

担当：建築局住宅政策課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。